

六 廿 化



6

俳句雑誌りつか

2013 (平成25年)

cover design Yuna Mizumo

の 野 風 増 の 搔 き し 代 田 の 静 かな る
な 中 空 に 雲 の 隙 間 や 代 田 澄 む
あ 足 跡 に 生 ま れ ゐ し も の ゐ し 代 田
の 野 佛 に 葉 罐 あ づ け て 田 搔 かな
ん 運 よ く ば 明 日 は お 湿 り 田 代 か く
こ こ ん こ ん と 代 田 の 隅 に 引 け る 水
ん 美 き 酒 米 作 ら む と い ふ 田 搔 かな
れ 霊 水 を 源 と す る 代 田 かな

ご 胡麻まぶす大にぎりめし代田縁べり
と 解きほぐし足らぬと田搔漢かな
き 雉子過ぎる代田眼下にしてをれば
が 蝦蟇出てきて代田にごりかな
な 苗下ろす雇ひ若衆代田べり
か 塊の土頭だす代田かな
ぞ ゾンビかと紛ふ田搔を終へし貌
ら ラヂオから正午の時報代田波

に やんと鳴く舌もて代田波立たす
う 後ろから鷺の付き来る田搔きかな
か 帰りつつ代田幾度も振り返る
び 美辞麗句などはいらざる代田かな
て 天上は代田の中にあるにけり
あ 足を抜くときに代田へ四つん這ひ
ら 来世から夕風の来し代田かな
む 村の灯をさざめかしめる代田かな

遠山利子歌集『れんこんの穴』

「れんこんの穴のごときが中空にうかびてあらむ雪はこんこんと」
を冠して。

と ん こ ん こ は き ゆ
と 運 こ こ 腰 は き 木 夕
く 悪 こ こ 手 掃 き 登 暮
と しく だ わ 拭 き り の 終
と 書 つ っ 抜 浄 め の へ
棚 留 の 代 ば げ な が 子 へ
の 来 田 一 づ ば 代 目 気
水 音 の 来 づ づ 田 目 も の
音 の 来 づ づ 田 目 も の
る 代 づ づ 田 目 も の
田 づ づ 田 目 も の

太白（金星）

太山寺

水音をみそぎに藤の奥の院
吾人に恵まれ青葉若葉かな
拝観料けふは要らざる練供養
三重の塔に山藤垣間見ぬ
山藤に光降りくる太山寺
万緑の祠なりけり奥の院
なでしこに集へる三十四の瞳
漕ぎ出でな大舟盛の初鰹

花の庭譲り受けたる父の鍵

市川伊團次

はなのにわゆるりうけたるちちのかぎ

いちかわいだんじ

春月の影は力を含みけり

ひとときを足場に使ひ竹の秋

会ふことの思ひ出ひとつ竹の秋

春灯に被さる夜明け始まりぬ

森鷗外『渋江抽斎』に「庭の訓」という言葉が出てくる。抽斎の父允成の「庭の訓が信頼に足る云々」と。「庭訓」は、孔子が自分の子が庭を走り抜けたのを呼びとめ、詩や礼を学ばなければいけないと論じたという「論語」（季氏篇）の故事に由来する。これにより家庭での父の教えを「過庭の訓」または「庭訓」ともいう。掲句は一家の世代交代に相応しい場。桜の見事に咲いた庭で、父から鍵を譲り受けた。鍵は一家のさまざまな鍵。金属の鍵ばかりでなく、家長としての心構えの鍵も。

家を詠んだら右に出るもの少なし。

雪 卿 集

しゃぼん玉

貝森光洋

とりあえず屋根越えてみるしゃぼん玉
鶏小屋の解れに猫居る春の昼
長閑けしや鼾かく犬飼いており
舌を噛むフレンチメニュー山笑う
薔のクエスチョンマーク白神に

春の月

梶浦玲良子

雉子啼くや頬の紅きに耐へかねて
春の日の帰りを待つてゐる撞木
千枚の柵田は切絵春の月
遠野火や夕空あかね広げゆく
雁帰る流木寝返り打ちにけり

せつ じゆ しゆう
雪 樹 集

日本晴

筒井八重子

日本晴寒さ忘れてバスを待つ
枝々に囁の声輝きぬ
黄水仙日光浴びて咲きにけり
木々の葉がぴかぴか光る寒き春
落ちにけり雨の椿の真白なる

雪柳

出口

誠

石段の石の間にすみれ咲く
白梅の幹伐られても咲きにけり
父の靴借りてスーツの卒業児
河原をむら染めにしして黄水仙
自らの重さに曲がる雪柳

蛭雪譚



六甲

二十五年六月号選後に

とりあえず屋根越えてみるしゃぼん玉 貝森 光洋

とりあえずとはさしあたって、まず・一応。という意味を当てはめたら、それが決定意志ではなく、屋根を越えてみてからその先の行動や手当を考えていくという意味と、ほかに「たちまちに、たちどころに」という意味があるのだ。屋根を越えたら風任せだよとしゃぼん玉は考えたのであろう。一見優柔不断のようにも見えるが、しゃぼん玉にとって屋根を越えられるか、それまでに壊れるか判らないのだ。大江健三郎の小説「見る前に跳べ」というタイトルをあてはめて考えてみれば「下手な考え休むに…」ではないが、とにかく屋根を越えてからだという意志をしゃぼん玉に代弁させながら、作者自らにも言い聞かせているのか。このしゃぼん玉は必ず屋根を越えられる。『成功する人はなぜジャンケンが強いのか』（青春新書インテリジェンス）「新書」に書いてあるような強運の持ち主だからだ。屋根を越えたらまず春風に乗ってしゃぼん玉の目指すところへ飛んで行ける。1950年代に想像力が大きすぎて行動に移せなかった青年は2010年代に跳べ。助走できる強韌な脚と強力な羽を与えよう。

六花集

背拾竹男鮎 緋水春千千 風拔春草故
伸ひ林先子 牡面風姫姫 花け昼の郷
びひのづの 丹のにもの や道や芽の
しあび目ト 今新色か愛 二來娘の墓
てげびで口 日緑直くで 体ての形域
つた一と剪箱 の主を待と古 並沈念れを
ひ円そら定走 役は搔つ牡丹の び花のへ土
歩玉鳴る始人 我と濠城や春 首香に夫抱
も雛の彼岸 咲のかか牡 地迷に婦拵
子愁寺るり く舟なに丹 藏ふ箸きな

池田喜代持

加納淳子

平居濤子